

2011年度

科目名	ゼミナールⅠ				
担当教員	岡島 克樹				
配当	人社3			コード	33078
開期	通年	講時	水曜日3限	単位数	4
授業テーマ	国内外の社会課題の原因と解決・緩和の取り組みについて学ぶ				
目的と概要	ゼミ生それぞれが地域研究実習で選択したトピックについて、さらに幅広く深い知識と理解を得るために、文献読解を行う。また、自分が理解した内容を他の人と共有するためのコミュニケーション能力を高めるために可能な限り多く発表の機会を設ける。さらに、人と話す中で自らの考えを深めることができるようディベートの手法をゼミのなかにも取り込んでいく。				
成績評価法	ゼミへの貢献(他のゼミ生の発表への質問等)50%、発表50%				
テキスト	とくに定めない。				
参考書	適宜、紹介する。				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	適宜、参考図書を伝えるので、可能な限りこれらに目をとおすことを奨励する。				
講義計画					
<前期> 本年度前期のゼミでは、地域研究実習の実習先との関連で、各ゼミ生の興味関心に応じて、以下の3つのグループに属し、共同で文献を探すなどしつつ、個人課題に取り組む。 (1)国内班： 日本国内にある社会課題、とりわけ、本年度は地方の地域振興というテーマに着目し、どのような問題がいかなる要因に基づき発生しているのか、また、それに対して行政や市民社会（NPOなど）はどのように対応しているのかについて、文献調査を行うとともに、個人でレジュメを作成し、発表する。 (2)富田林市役所班： 富田林にある社会課題に注目して、共同で文献調査を行うとともに（富田林独自の文献がない場合は、関心ある分野の政府方針などにかかる文献を読む）、個人でレジュメを作成して、発表する。 (3)カンボジアスタディツアー班： カンボジアの歴史や社会経済状況、行政・政治システムについて、文献調査を行うとともに、個人でレジュメを作成して発表する。 1回目：ゼミオリエンテーション 2回目：図書館の利用方法 3回目：レジュメ作成方法解説 4回目：ディベート練習（1回目） 5回目：ディベート練習（2回目） 6回目：発表（4名） 7回目：発表（4名） 8回目：発表（4名） 9回目：発表（4名） 10回目：発表（4名） 11回目：発表（4名） 12回目：発表（4名） 13回目：発表（4名） 14回目：上級生によるレクチャー（カンボジア編・地域のNPO編・市役所編・一般企業編） 15回目：まとめ なお、岡島ゼミでは、スタディツアー（国内・海外双方）型の地域研究実習を行ったゼミ生には、もう一つ、一般企業でのインターンシップを経験してもらうことにしている。 <後期> 後期では、夏に出かけてきた地域研究実習に関して、学外での発表（ワンワールドフェスティバルや三大学合同報告会など）、学内での発表（ゼミ、大阪大谷大学人間社会学会など）の機会を設けるので、積極的に活用してください。また、問題分析力や企画力を鍛えるPCM（プロジェクトサイクルマネジメント）手法を鍛えるセッションも行う。 1回目：後期イントロダクション 2回目：PCMの基本ステップ 3回目：事例1（多文化共生推進） 4回目：事例1（つづき） 5回目：事例1（つづき）					

6回目：事例2（生涯学習）
7回目：事例2（つづき）
8回目：事例2（つづき）
9回目：地域研究実習に関するゼミ内発表会
10回目：グループディスカッションの方法解説と実践（他のゼミと共同 その1）
11回目：グループディスカッションの実践（他のゼミと共同 その2）
12回目：卒論テーマ発表（その1）
13回目：卒論テーマ発表（その2）
14回目：卒論テーマ発表（その3）
15回目：まとめ

なお、上記のほか、例年、2月または3月にゼミ卒論開始合宿を開催している。かならず参加するようにしてください。